

「只見 移住物語」

二地域居住者・民泊 ^{えんじゅ}縁樹の家 管理運営

農業

【移住者のご紹介】

お名前：^{やなせ}築瀬 栄一様 61歳

ご家族：弟（58歳 栃木県 矢板市）、従妹（53歳 栃木県 矢板市）

いつ：2019年1月

どこから：栃木県 矢板市

どこへ：福島県 只見町 布沢区 民泊 ^{えんじゅ}縁樹の家

いましていること：栃木県 矢板市内 地元集落 会計担当、檀家役員
福島県 只見町 布沢区 民泊 ^{えんじゅ}縁樹の家 管理運営
農業（米作・畑作）

まえにしていたこと：JR 東日本



縁樹の家 薪ストーブの前にて

【始まり】

移住する前は、JR 東日本に勤務していました。いわゆる現場にいた時は山手線、宇都宮線の車掌をしていました。特急 踊り子号で伊東にも行きました。山手線には 20 年ほど乗務しました。最後の 13 年間は、現場から離れ管理職でした。乗務員区の当直助役として最後は上野車掌区にいました。

根幹となる職責は社員の管理と育成ですが、通常業務は乗務員の勤務作成、電車運行状況が乱れたときの運休整理、乗務員の体調不良などによる欠勤の勤務送配、出退勤管理（アルコール呼気検査等）等をしていました。

勤務時間は基本的には出勤すると夜勤になります。出勤した朝から、翌朝までの勤務です。2 人で当直するので、早番は 9:00～翌 8:30、遅番が 10:30～翌 10:30 という勤務体制です。早番は早く就寝して初電対応（3:30 頃出勤する始発乗務員の対応）で、遅番は終電対応（1:30 から、遅い時は 2:00 頃に宿泊に来る終電乗務員の対応）をします。

基本 夜勤明けは非番になります。一徹（夜勤）をして、翌日非番になります。翌日に、二徹（夜勤）をして非番になります。勤務パターンは個人の都合による希望もあり勤務計画を作成する前に個人の希望を聞き取りました。140 名程の乗務員がいましたので勤務計画を作るのはやはり大変でした。

実は、車掌乗務には制約があって全員が全部の電車に乗れる訳ではありません。例えば、上野車掌区だと宇都宮線、高崎線、常磐線で、普通のローカル線ならだれでも乗務できますが、常磐特急は車掌になってから 1 年が経過しないと乗務できないのです。経験がないと特急には乗務できません。カシオペヤも、すぐに乗れるわけではありません。臨時列車はいろいろなところへ行きますので、それも一定の経験が必要で、すぐに乗れるわけではありません。見習いを経て、経験を積んで乗務するのです。ですから誰がどの電車線区に乗れるのか把握していなければ勤務作成は出来ません。

職場と自宅（栃木県 矢板）を新幹線通勤していました。新幹線ですからすぐです。東京で一人暮らしするよりも楽ですし、経済的です。宇都宮から新幹線に乗れば東京まで 55 分ですから。新幹線を利用した通勤だけでなく、通学の学生さんもいました。宇都宮だけでなく、那須塩原でも通勤圏ですね。新幹線は早いですからね。

60 歳で JR を退職しました。退職後も本人が希望すれば 65 歳まで会社の制度として関連会社で働くことが出来ます。給与は少し下がりますが働き場所を世話してくれます。退職者の 70%位は関連会社へ再就職したと思います。しかし、私は退職後に関連会社へ行こうとは考えていませんでした。自分のやりたいことを、自然の中で第二の人生を生きて行くことを決めていました。

退職する2年前位でしたか、私が58歳だったと思いますが、松崎さんと田中さんが只見町 布沢で民泊 縁樹の家を始め、生活していることを知り、お二人とは顔見知りでしたので「私もここで一緒にやらせてほしい」と自分の想いを伝えました。するとなんと「来てくれ」と回答があり、メンバーに加わりました。

「類は友を以って集まる」という格言がありますが、まったくその通りだと思います。それぞれの共通点や分かち合うものがある者は、仲間として自然と寄り集まるのでしょう。2011年7月 新潟・福島豪雨災害を目の当たりにした松崎さんや田中さんの「ここの復興にきた後輩も同じ鉄道員だ、何とかしなければ」という想いに、多くの人が共感、集まりました。その結果「縁樹の家」が生まれました。そして「縁樹の家」に都会の人たちが来ることにより、只見町との交流が生まれ、只見線の利用客も向上します。また自然の中での暮らしを体験し、年に数回 只見町に足をはこぶことにより関係人口が生まれます。願いや想いが同じ人達は自然と引き寄せ合い、一つの現実を作って行く人生の不思議、奥深さを体験しました。



縁樹の家 冬支度

【準備】【現在】

退職までの2年間 ここ（縁樹の家）を何回か訪れていましたし、作業も手伝っていました。こちらに来ることについて、不安は全く感じたことはありません。

趣味は登山、ゴルフ、スキーで、自然が好きでした。蒲生岳に1回登りました。今年後輩と浅草岳に登る計画をしていましたが、このコロナ感染で取りやめました。来年には状況を見て登ろうと話しています。浅草岳、朝日岳、蒲生岳は登りたいと思っていますが、なかなか時間がなくていけません。

いまコロナ禍でお客様が来ないので「縁樹の家」を仮住まいにしていますが、こちらでの住まい（空き家）を探していますが、なかなか見つかりません。

畑は、集落の人から「空いている畑を使っていいよ」と言われているので、少しですが耕しています。布沢のお米は美味しいので毎年注文を受けます。80袋（1袋30kg）を送っています。縁樹の家メンバーで作れたのは46袋でした。注文数に足りない分は集落内の農家からも調達しました

薪作りは、春先から始めます。そうでないと薪が乾燥しません。分校の前の棚田の草刈り、昨年 陽光（注1）という名前の桜を60本植えました。今月もその桜の雪囲いをします。

（注1）アマギヨシノと（天城吉野）カンヒザクラ（寒緋桜）を交雑させて作出した栽培品種。

あと森林組合の仕事を手伝って欲しいと声がかかり、杉の間伐をしています。大きい杉はそのままにしておいて、それらの間にある枯れたものや、生育の悪いもの、曲がったものを伐採します。伐採した杉は切りそろえて山の中に並べておき、自然へ戻します。早いもので、こちらに来て2年目を迎えます。

【家族】【二地域居住】

弟、従妹には退職したら福島県 只見町 布沢にある「縁樹の家」というところで暮らしはじめ、実家と行き来する生活（二地域居住）をすると話しました。

実家（矢板市）と只見町を行き来して、住民票は動かしていません。いわゆる二地域居住と言われる暮らし方ですが、自分は長男なので最終的には地元へ帰らなければならないので住民票は只見町に移動させることはないです。いま部落の会計の仕事と、檀家の仕事があるので月に1回1泊で戻ります。車で2時間ちょっとです。塩原温泉から関谷に抜け、矢板に入ります。残りすべては「縁樹の家」で働いています。

【変化】

こちらに来て良かったと感じる事は、色々あります。周りの人達が温かく受け入れてくれた事、色々な野菜も頂けるし、お米も美味しいです。全部いいですが、やはり自分がやりたいと思っていたことが出来るのがいいですね。言葉では表現できない満足感を感じます。JR にいた 42 年間 組織の一員として働きました。組織は、組織の社会的目的を遂行するために、当たり前ですが組織の一員としての責任、行動が求められます。でも、いまは自らのペースで、自分がしたいと思ったことが出来るので、本当に最高です。でもね、実際にここで生活してみると、意外と忙しいです。集落の事業に参加したり、自分でやりたいことが新たに出来たり、また、それが楽しいのです。

【健康】

これと言った持病はありません。もともと体は健康です。若干血圧が高かったのですが、いま下がりました。夏の間スズメバチに刺されたりすると診療所に行くことはあります。あと歯医者にも通っています。健康で気を付けている事と言えば病気、怪我と睡眠をきちんと取るように注意しています。しっかり働いた後も、きちんと睡眠をとれば、翌日は疲れも回復していてすっきりしています。

毎日体を動かす生活なので体重も減少しました。食事も野菜が中心になる健康的な生活です。たまに揚げ物とかトンカツとか牛丼とかを食べたいなあと思う事があります。

実は昨年 100cc クラスのバイクを購入しました。田中さんがバイクを持っていて、いいなと思って自分も乗り始めました。休みの日とかに田中さんを誘って『ツーリングにいいお昼(なんかボリュームのある食べ物)を食べてこようか』ってこともあります。昭和村に行くと松坂峠を越え戻ったりしました。あとは桧枝岐を訪れたり、前沢の曲がり屋を見に行ったりしています。走り、お昼を食べるツーリングですが、楽しいですね。

【将来】

最低でも 80 歳位までは、ここ（縁樹の家）で、健康に元気に働いていきたいです。住まいとして縁樹の家でずっと暮らすことはできないので、いま空き家を探しています。よい空き家があれば、松崎さんや田中さんみたいに購入してリフォームしようと考えています。

今年すぐ近くの方が作っていた田圃を止めると言われたので、そこをお借りして本格的にお米作りを 3 人で始めたのです。その反対側のスノーシート側にも空いている田圃が 4 枚あったので草を刈って、土の中の石も拾い出し、畝りました。来年は 30 年ぶり位に田植えをするので、それが楽しみです。

【不便】

暮らし始めて困ったことは特にありませんし、いま困っていることもありません。強いて言えばウオカクが閉店してしまったのは不便ですね。月に1回くらいまとめてブイチェーンで買います。

【アドバイス】

ここに移住する方もおられれば、私のように移住はしないけど第二の人生を過ごす方もおられると思います。よく人生100年と言われるようになりましたが、学生時代が20年、会社務めに40年、そして第一線から退いてから、元気に働ける、動けるのはほぼ20年位でしょうか。自分の好きなこと、やりたいことをやれるのは20年間程（175,200時間）なのです。

退職後に何かをする希望を持っておられる方もいると思いますが、退職後に何をしたいかは退職後ではなく、退職する前からいろいろと考えて、構想をめぐらし、準備した方が良く、私は思います。そうすることで現役時代から豊かな時間を過ごせるでしょうし、175,200時間を有意義に使えらると思います。

実は、ここに来る選択以外にももう一つプランを持っていました。那須に三斗小屋温泉という電気もかよっていない秘湯の温泉があります。そこに煙草屋旅館という名前の山小屋があり、十数回通っていて顔見知りでしたので、そこで雇ってもらいたいと考えていました。よく山を始めた後輩に「山に連れて行ってください」とせがまれると、先ず初めての山として那須 三斗小屋温泉に連れて行ったのです。手ごろで温泉にも入れるので雇ってもらいたいと考えていました、

ただ松崎さんと田中さんが只見町 布沢で民泊 縁樹の家を始め、ここの話しを知り、「私も行きたい」と言ったら「すぐに来てくれ」という事で、こちらへ来ることになりました。

【生活】

先輩2人が、地域や地元の方々と信頼、信用の基盤を作ってもらったところに来ているので自分は幸せだと思います。一番心掛けることは、もちろん挨拶です。それから地元の草刈りや、老人クラブの草刈りとか、催し物、行事には必ず参加するようにしています。

2020年11月2日 縁樹の家にてインタビュー

インタビュアー 移住コーディネーター 生天目 博